

□第一回全体研究会

日時：2012年6月8日（金） 14：00 - 16：00

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 東アジア研究所共同研究室 1

報告者：Kai HE（Utah State University）

タイトル：“Decision Making During Crises:

Prospect Theory and China's Foreign Policy Crisis Behavior after the Cold War”

使用言語：英語

概要：

第1回研究会ではEAIフェローとして来日したHE氏の最新の研究について報告を受けた。HE氏は冷戦後に米中間で発生した4つの外交的危機を事例に、安全保障上の緊張が高まりつつも危機に至らない「近危機（near crisis）」の状況下における中国の外交行動を、行動心理学の理論であるプロスペクト理論（prospect theory）を用いて説明した。理論的には合理的選択モデルを基礎に、危機が発生した際の状況を条件要因とするプロスペクト理論を応用して国家の行動選択分析を行った。そして、中国の外交行動は 危機の深刻性、指導者の国内での権力掌握、 国際的圧力、の3つの要因の組み合わせにより形成されると結論付けた。最後にHE氏は、2011年に日中間で発生した尖閣諸島問題を事例として理論の応用を試みた。

HE氏の議論は権威主義国家における外交行動の類型化を試みたもので、HE氏自身が認めるようにまだ検討途上にあるが、最終的には外交行動を説明・予測する新しい理論の提示を目指す斬新なものであった。質疑応答では3つの要因に基づく分類に関する質問が多く挙がり、危機の深刻性の受け止め方はアクターによって異なるのではないかと、台湾問題などの中国の「核心的利益」に関わる事例は自動的に深刻さが高いのではないかと、といった指摘がなされた。また尖閣諸島問題については日本国内の政治動向にも議論がおよび、活発な討論が行われた。